

うしく里山の会 広報誌

さとやま

No. 115

2012年9月号

NPO法人 うしく里山の会

事務局 〒300-1212 茨城県牛久市結東町489-1
(牛久自然観察の森内)

TEL 029-874-6600 FAX 029-874-6812

HP <http://ushiku-satoyama.org/>

(アドレスが変わりました)



里山自然観察隊の活動で 学んだこと

里山自然観察隊 平塚芳雄

見慣れた風景も視点を換えれば 自然の恵みが見えてくる

平成18年4月、観察隊の活動「スマイレの観察会」に初めて参加してから早6年が経ちました。この間、植物に関する観察会や調査活動等を通じて草木の種名、構造・形態、生活型、花粉媒介、植生、食物連鎖等を学ぶ機会を与えて頂きました。形、大きさは違えど地球上の命あるもの全てに生きる意味があるのだと思うようになりました。

草木の名前などは覚えては忘れ、忘れては覚えるの繰り返しですが、身近な植物への関心は深まり、植物の生育環境としての森林や湿地の大切さ、生物多様性の重要性を痛感、人間が生きていけるのは自然の恵み（生態系サービス）があればこそその思いを深くしました。

自然の生態系が持つ働きの中で人間の生活に恩恵をもたらすものを「生態系サービス」と呼び、「供給的サービス」（食料、燃料、淡水などの提供）、「調節的サービス」（大気、気候、水、土壌、災害などを調節する生態系機能）、「文化的サービス」（レクリエーション、審美的な喜びなど）、「基盤的サービス」（水・物質循環、生物多様性など）の4つに分類されます。

しかし、今、人間の行為により地球規模で森林や湿地の減少が進み（生態系の劣化）、絶滅が危惧される生物種が増大（生物多様性損失）し生態系サービスが失われつつあります。

私達人間も生態系の一員であることを認識し、生物多様性を守るため何ができるのか考えながら行動しなければならぬと思います。まずは生きものに関心をもつことを第一歩として。



うしく里山の会には

個性豊かなプロジェクトが

たくさん活動しています。

先月はどんなことがあったでしょうか？

それでは紹介しましょう！

プロジェクト
活動報告

巨木リサーチ事業報告

内田 智子

平成24年度第3回管理活動

7月1日(日)、今日は平成18年から20年までの3年間に調査した「牛久市内の巨木」の管理活動です。猛暑の中、元気な5人は、朝8時30分に牛久市役所玄関前に集合しました。2台の車に分乗していざ出発です。

最初に向かったのは、島田町・永沼家の「市民の木 No.26」のスダジイです。2006年の測定では、幹周5.84m、樹高23.6mで、調査木14本の「スダジイ」の中で最大級でした。写真のように幹は3分岐していて、測定当時から北側はほぼ枯死状態でした。これは周りに侵入したモウソウチクの影響と思われる。そこで2009年以来、モウソウチクを伐採し、環境を整えています。

スダジイの脇に永沼家の氏神である三峰神社がありますが、秩父市の三峰神社からお札を迎えて祀るそうです。永沼家には他に、「市民の木 No.27ケヤキ」、「市民の木 No.28ムクノキ」と「希少木のサイカチ」(倒伏したため現在は伐採)があります。管理活動終了後、永沼さんにごあいさつに行きました。ご夫妻共々もお元気で、お茶をご馳走になりました。牛久の戦時中の様子をたくさん伺いました。思いもかけないことでしたが、楽しい時間を過ごさせていただきました。

次に牛久幼稚園の隣の日枝神社に向かいました。この神社では以前、「市民の木 No.6スダジイ」、「同 No.7スギ」と「ウワミズザクラ」の調査をしています。その時は参道と境内の一部がマダケに覆われていて、調査木は藪の中で参道からほとんど見えませんでした。

スダジイはマダケの影響と思われるが、東側の太い枝が枯死していました。スギは落雷の障害痕と推察される縦の裂傷が見られました。現在は樹木の姿が全て見えるようになり、しめ縄が張られています。

今回はこれまでに少しずつ広げてきた参道に細いマダケが生えていることがわかり、その伐採をしました。作業前はたくさん細いマダケが生えていましたが、皆で作業していると、あっという間にきれいになりました。人海戦術はすごいです。そしてみんなでの作業は楽しいです。きれいになるとうれしくなり、また次も頑張ろうと思います。

日枝神社は権現様(ごんげんさま)とも呼ばれ、祭神は大山昨命(オオヤマクイノミコト)、創立は天正年間(1573~1592)と伝えられています。参道の管理活動をしながらかつ時の祭りの折の境内や参道の賑わいに思いをはせたりして楽しんでいきます。



永沼家の「市民の木No.26スダジイ」の前で
戸塚 12.7.1



あやめ受託事業報告

佐藤 輝雄

過酷な作業環境のアヤメ園

アヤメ園の作業も、7月・8月と過酷な作業環境を迎え猛烈な暑さとの戦いをしています。

7月初めから作業時間を、早朝の6時30分から10時30分と、比較的涼しい時間を見計らって行っていますが、アヤメ園はご存知の通り広い田んぼ。日陰は全くなく、太陽の日差しは私たちに遠慮することなく強烈に照射します。

作業開始とともに汗がどっと噴き出し、帰る頃には上下の衣服がビシヨビシヨ状態です。そのような環境の中の過酷な作業、それは畝つくりと花菖蒲の株分けで、花菖蒲の株を抜き田んぼを全部掘り起こす作業です。

花菖蒲は3〜4年に一度株分けをする必要がありますが、今年の株分けの対象はさほどなく例年よりは比較的楽になります。しかし、株を掘り起こし、客土のため土を一輪車で運ぶ。そして耕運機で耕して、その場所に手作業で畝をつくる。ことばでは簡単に書けますが、太陽が照りつく中での作業は30分と体力がもちません。小休止の連続です。



身の丈ほど伸びたヒレタゴボウ



穂が実ったイヌビエ

ただどなんとか8月中旬までに株分け作業が完了しました。皆さんはなんでこんなに暑い最中に作業するのかと思うかもしれませんが、花菖蒲は花のシーズンが終わった後、8月中旬までに株分けを行う必要があるからです。花菖蒲は待つてくれません。

やれやれと思った瞬間に周囲を見回すと、今度は一面雑草だらけ。伸びた雑草でほとんど花菖蒲の株が見えなくなりました。株分け作業前までは雑草との勝負に私たちが勝っていたと思っただけですが見事に追い越されました。特に「ヒレタゴボウ」と「イヌビエ」は人間の背丈ほどにもなり、「ヒレタゴボウ」の黄色い花は一面に咲き出し、「イヌビエ」の穂は種が熟して落ちるほどになっています。もう一つ悪いのは「ヒレタゴボウ」が大きくになると、茎は木質化して固くなってしまい、鎌で切ることができません。切れたとしても今度は田んぼに残った切り口が作業用の長靴に穴をあけてしまうことです。

ヒレタゴボウ アカハナ科チヨウジタテ属。熱帯アメリカ原産の帰化植物でアメリカカミズキンバイともいう。日本で戦後確認された。

イヌビエ イネ科の一年草。

また、「ヨシ」がほとんど田んぼに進出してきました。「ヨシ」の根は地中深く耕運機で掘り起こし

ても取り除くことはできません。根気よく刈り取るしかなさそうです。最近の話題は「キジ」が営巣していることです。卵は6〜7個あるでしょう。一時「カルガモ」の営巣が見られカラスに襲われてしまったことがありましたが、今度はうまく孵化してほしいと願うばかりです。

このようにつらいことも、ほほえましいこともあるアヤメ園です。



親子農業体験講座

一般参加者 久保 直史

今年も豊作を夢見て！ 親子で挑戦！

今年もお世話になってます。娘と畑に通うのも3年目となりました。今年は何年とは違い、少数精鋭？のメンバーが集まっています。じゃがいも、サトイモ、ヤーコンに加え、新たなチャレンジとして、牛蒡、落花生、西瓜も植えました。

牛蒡の種、初めて見ました。ここに来ていなければ、きっと一生見ることはなかったでしょう。すくすく育っているようなので、収穫が楽しみです。

落花生、不思議な植物ですね。花が落ちて実がなる。身近に落花生畑はたくさんあるのに、ちゃんと見たことがありませんでした。実がなっている様は一見の価値あります。早く収穫して食べたい！

西瓜、肥料も水も足りないか？ヒョロヒョロです。がんばれ！

さらに、一部のサトイモにマルチシートをかけたました。雑草の抑制効果に威力抜群！やはり雑草取りが一番大変な作業です。農家の方には本当に頭が下がります。マルチに感謝感激です。

さて、子供たちはというと、相変わらず、虫や蛙を追いかけまわし、捕まえています。蛙を何十匹も捕まえ、力を合わせて立派な蛙池も完成。トカゲもミミズも蛇もへっちゃらな様です。本当に楽しそう。



すっかり意気投合した子どもたち

子供たちの笑顔を見ると、草取りの疲れも癒されます。今年はカブトムシの幼虫の里親も体験させてもらいました。幼虫が蛹になり成虫になる様を観察でき、娘とともに、生き物の神秘さを改めて感じさせられました。約束どおり、成虫を森に返すことができ、ひとまず、里親の役目も果たせました。娘にとっては、カブトムシとの別れはかなり名残惜しかったです。単なる約束だからというだけではなく、森に返すことの意義を説明しましたが、6歳の娘はどこまで理解できたのだろうか。最後は笑顔で森に返すことができ、ほっと一安心。この日のことを忘れないでほしいと切に願う。

さて、後半戦は待望の蕎麦。今年もあの蕎麦が食べられるかと思うと、種を蒔く前から非常に楽しみです。皆さん、後半戦もよろしくお願ひします。



雑木林応援隊

原口 隆男

夏の風物詩『草木染め教室』に想う

ひととき残暑が厳しい8月下旬、毎年この時期に牛久市の広報誌で参加者を募集する「草木染め教室」が今年も8月26日に開催するはこびとなった。『炭焼き、草木染め、ツルカゴ教室』は毎年うしく里山の会

で主催する行事の中でも主婦層に人気が高く、雑木林応援隊が自慢できる催しなのである。



草木染めに参加した人たち

特に『草木染め教室』は愛好家の間でも根強い人気があり、毎年1回楽しみに参加する人が多く、そんなファンに支えられ、今日に至った経緯がある。

植物から染める草木染めは古来から始まり、桜色等で知られる紅花などはすでに3世紀頃に中国から伝わったとされ、やがて平安時代には『優しい色合いの文化』がもじどおり花開いたと言われています。

何かの本で見た記憶ですが、日本人は自然のあるがままの美しさをどこか身近に置いておきたいという意識があり、どこかに移しておきたい、保存して

おきたい、身の周りにおいておきたいという意識が色を染め、それを身にまとうようになったと書かれています。

草木染めの独特な『色合い』が万人に好まれる原因にはそんな背景があるのかとふと感じた次第です。

草木染め教室では毎年人気のあるのは『藍の生葉染め』です。

その為には藍の生葉が大量に必要となり、毎年応援隊の（畑隊）に藍の栽培はお願いしています。先日畑を見に行った限りでは畑隊の人達の手入れが行き届いており、今年の藍の生育具合は非常によいので、藍の生葉染めは仕上がりよい藍染の製品が期待出来そう。

又、毎回平行して実施される和気藹々の雰囲気の下で行われる昼食会のイベントでは5メートル程の長さの流しソーメン大会が参加者の評判を呼び『草木染め教室』を楽しく盛り上げる一因となっています。



流しソーメンに舌つつみ

『草木染め教室』を実施する事には、それぞれ立場の異なる人達の協力が必要であり、改めてご協力に感謝申し上げます。

会員の仲間で見よう見まねで始めてから、仲間同志で勉強や工夫を重ねて、今日のようにうしく里山の会のイベント「草木染め教室」として市の広報で募集した参加者の方々に喜んでもらえるに至ったことは、嬉しい限りである。

「お詫び」
8月号の竹腰俊雄さんの記事を原口愛子さんと表示しました。
正しくは竹腰俊雄さんでした。
お詫びして訂正させていただきます

自由投稿

佐藤 輝雄

好きな生き物・嫌いな生き物

7月21日からつくば市の研究機関を中心に「つくばびつこ博士」が開催され、うしく里山の会でもつくば市にある森林総合研究所の「もりの展示ルーム」の説明員を委託された。

毎日2名1組で説明員を担当して生物多様性等についての展示物の説明を行っている。

展示品の中には生きた「カブトムシ」等があり、直接「カブトムシ」に触れるなど子どもたちの大人気でもある。中には展示ルームに来た時から帰りまで「カブトムシ」と遊んでいる子どももいる。

私も何年か前から説明員を担当させてもらっているが、今回興味を持ったことがある。今回の担当のとき生きた「イモムシ」を箱の中に入れ机の上に置いてみた。「イモムシ」は森林総研の敷地内で見つけたもので、「ブドウスズメ」・「セスジスズメ」・「コスズメ」の3種類の幼虫である。

大きさは7〜8cm、太さは大人の指（薬指）程度であり、きれいな緑色や茶色や黒色の「イモムシ」で、いずれも成虫はスズメガである。

机の上に置いても最初は皆気がつかないが、そのうちに子どもたちが「何？これ！」それを見た大体のお母さんたちは後ずさりする。「気持ち悪い！」。

私は「イモムシ」を手のひらに乗せて、「このイモムシ可愛いよ。柔らかいから触ってごらん」。すると子どもたちは、おっかなびっくり、そーと指で触れてみる。「やわらかい！」更に「指でつかんでみな！」恐る恐る手でつまむ。「つかまえられた！」子どもたちがだんだん慣れてきて、自分の手のひらに乗せられるようになる。

お母さんも近くにきて、「本当は良く見ると可愛いね！」と子どもと一緒に触ってみる。大きなウンチをする姿に「家の庭にもこんなウンチある」。得意そうに「イモムシ」持った我が子の姿をカメラに収めるお母さんもいた。



僕できたよ！！
僕の手と同じ大きさ
大体の親子は皆同じような反応をした。



可愛いよ！！

私も「イモムシ・ハンドブック」を見てから「イモムシ」に対する愛着を持てるようになり今回のような経験をさせることができたのである。（ただし毛のあるイモムシは全てでないが要注意）

展示ルームには前記したように「カブトムシ」が展示してあるが、大方の子どもは最初に「カブトムシ」を見つけて嬉しそうに遊ぶ。

また、「ダンゴムシ」の本もあり、3歳くらいの子も母さんとともに「ダンゴムシ」を喜んでいて人気のひとつである。

何人かの人に聞いた話だが「ダンゴムシ」をたくさぐんポケットに入れて家に帰ってくる子もいるようだ。（洗濯機に浮くときもあるとのこと）

先日「なぜゴキブリは絶滅しないのか」林晃史著のことが新聞に載っていた。この本によるとゴキブリは蚊とかハエと違って実際にはそんなに人に悪さをしないそうだ。それなのにゴキブリを好きな人はほとんどいない。まず、殺される運命にあるのがゴキブリである。そのため殺虫剤メーカーが相当もっかっているようである。カブトムシ・ダンゴムシ・スズメシ等は平気で触れてもゴキブリを触る人は少ないだろう。

アヤメ園で作業していると、時々幼稚園の子どもたちが虫かごを持ってバツタ等を捕りに来るが、イナゴやバツタ等を平気で触れる子、全然触れない子がいる。普段、触る機会がないから噛みつかれる、刺されるなどの恐怖心があるからと思う。



また、お母さん方の「そんなもの持ってこないで！」の一言が子どもたちの差として現れるのではないだろうか。

もう一つ例を紹介したい。それは我が家の庭に「アブラコウモリ」が死んで落ちていたので近所のお母さんと子どもに見せて、「コウモリは鳥か動物か？質問してみた。

子どもは鳥と答えたので、コウモリの顔を良く見せて何に見える？と問うたらネズミと答えてきた。お母さんも「可愛い顔だね！」。多分これで子どももコウモリを怖がることはないと思う。

好きにもなる、嫌いにもなる、生き物。小さいうちに経験させることでこの違いが出てくるのだと今回想わされた。

根古屋川の除草に参加する

佐藤 輝雄

根古屋川の除草をおこなう

8月24日、
早朝6時30分
から根古屋川
の河原の除草
を行った。

これは、9
月はじめに牛
久市が市内の
子どもたちを
招き、根古屋
川でウナギの
放流を体験さ
せる行事が行
われる。その
準備のため市



マコモに覆われた河原

役所と、うしく里山の会が協働で根古屋川の放流地点の整備のための除草を行ったのだ。
うしく里山の会からの参加者はS氏・M氏・F氏・N氏・私の5名である。全員が

があやめのメンバーであり前日のアヤマ園から連日の作業である。

やはり暑さ厳しいため早朝6時30分から作業を開始した。根古屋川の河原は年に2〜3回の除草のため「マコモ」を中心に、それこそ人間の背丈以上（2m以上）に伸び、作業する私たちが草の中に隠れてしまっほどの草に覆われる。

刈払機5台でフル稼働し、約2時間で刈払い作業を終了した。この後刈払っ



うしく里山会員のベテランによってみるみる除草される



見事に除草された河原

た草を集めることになる。また、これが大変な作業になる。河原から土手をよじ登り草を運ばなければならない。皆ばてる！しかし、本当に体力のあるアヤマ園のメンバーで感心する！9時過ぎ、市役所の人たちがパッカー車（ゴミ収集車）を持ってきて、私たちはここでバトンタッチをして10時ごろ引き揚げた。この辺りはまだ自然が豊富で、今年もたぐさんの大きな「アカガエル」を見ることができた。牛久周辺では「ニホンアカガエル」と「ヤマアカガエル」が見られるとのこと。
しかし生息数はだいぶ少なくなっている。



興味をもった「虫こぶ」

佐藤 輝雄

7月はじめ、「チーム街路樹20」のグループ研修で茨城県水郷県民の森へ行ってきた。（詳細は8月号小野氏の事業報告を参照）そこでネーチャーガイドの方から「エゴノキ」の枝を見せられ「これ何だかわかりますか？」と問われ「何か花の一部ですか？」「花はもう終わりました」私はよくわからなかった。説明されると「虫こぶ」との事。また、「こぶ」を割ってみると中には「アブラムシ」のようなものが入っていた。

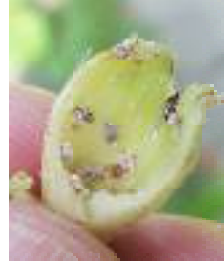
詳しく述べると、虫こぶは「エゴノネコアシ」、中の虫は「エゴノネコアシアブラムシ」である。これは面白い。早速家に帰って「虫こぶハンドブック」なるものを購入した。調べてみるとエゴノキの側芽に形成されるネコの「足先」状の虫えい。ネコの足指に相当するのはそれぞれ独立した

虫室とある。

今はこの虫ごぶは「ゴール」と呼ぶようである。ゴールを形成する生物の大部分が動物(昆虫が主で次いでダニや線虫)で、その他はウイルス類・細菌類・菌類などである。



エゴノキに作られたエゴネコアシ



虫室の中にはエゴネコアシ アブラムシ

運営委員会より

バザーの品物を寄付してください

10月21日に開催されます「うしくみらいエコフェスタ」で本会主催のバザーを開催します。

ご家庭で不要となつてい
る日用品などを寄付して
ください。収益金は会の
運営資金にあてさせてい
ただきますので、ご協力
よろしくお願いいたしま
す。



収集場所・・・牛久自然観察の森
募集期間・・・10月10日ごろまで



結束町みどりの保全区

エコアップ作戦

齊藤 孝

「エコアップ作戦」参加者募集のお知らせ

牛久市結束町の牛久自然観察の森に隣接する「牛久市結束町みどりの保全区」の森林維持管理作業を行う「エコアップ作戦」では、地域の皆さんの協力のもと、下草刈りや除間伐、風倒木の処理等を行なっています。活動には会員・一般問わず参加出来ます。皆様のご参加お待ちしております。

9月の活動日時

7日(金) 午前9時～11時

16日(日) 午後1時～3時30分

集合 牛久自然観察の森ネイチャーセンター

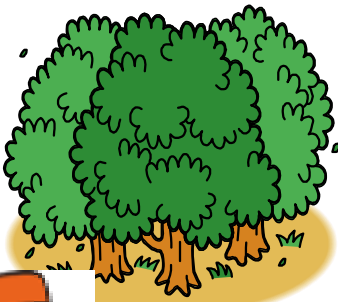
1階倉庫前(予約不要/荒天時は中止)

持ち物 長靴、軍手(長袖、長ズボン)

刈払機・チェーンソー使用は資格所有者のみ

問い合わせ先 029 874 6600

担当：石神



身近な樹木 No.18 クサギ



クサギの果実とがく 渡辺03.9.17

クマツヅラ科クサギ属の落葉広葉樹の低木で高さ3m前後。全国に分布し、市内では斜面林の下部や林縁に生育しています。葉は対生で長い葉柄があり三角状卵形です。この葉を揉むと特有の臭いを出し、和名の由来となつていますが、若葉が食用にされているように、そんなにひどいものではありません。7～10月に枝の先に房状に付く白い花は美しく、雄しべが長く突き出して芳香を漂わせます。花の後、5つの真紅のがくの中央で紺碧の果実が輝き、大きな緑の葉に映えて目を惹かれます。

花や実の魅力からみると、庭木として使われてもよいと思われませんが、臭い葉とクサギという名前のせいか敬遠されています。同じ科であるムラサキシキブ(8月号参照)が、庭木として親しまれているのと大きな違いです。赤と青の派手な果実のクサギよりは、紅紫色の小粒の果実のムラサキシキブの方が日本的な風情があるといえますが、臭木と紫式部という名前から受ける印象が強く影響していると考えられます。

名は体を表すので、山野でクサギを観察・同定するには便利な和名ですが、命名された方は迷惑かも知れませんが、匠の技ともいえる花と果実をご覧下さい。クサギのイメージが一変することと思えます。(羽賀正雄)

2012年 9月 NPO法人うしく里山の会 活動カレンダー

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3 (休園日) アヤマ園(受) 6:30アヤマ園P	4 森の畑 9:30畑	5	6 アヤマ園(受) 6:30アヤマ園P 自然観察出前講座 (向台小)	7 クラフトプロジェクト 13:00NC	8 親子農業体験講座 9:00畑
9 雑木林応援隊 9:00ムジナ	10 (休園日) アヤマ園(受) 6:30アヤマ園P	11 森の畑 9:30畑	12 [会報等原稿×切]	13 アヤマ園(受) 6:30アヤマ園P 里山自然観察隊 (モニクワ 里地調査) 8:30得月院前P	14 刈払機講習会 9:00NC	15 雑木林応援隊 9:00炭屋
16 運営委員会9:00NC 雑木林応援隊 9:00炭屋	17 (敬老の日) アヤマ園(受) 6:30アヤマ園P 雑木林応援隊 9:00炭屋	18 (休園日) チーム'街路樹20(受) 8:30ボランティアC (巡回管理)	19 (休園日)	20 (休園日) アヤマ園(受) 6:30アヤマ園P	21 クラフトプロジェクト 13:00NC	22 (秋分の日) 巨木リサーチ2(特) 8:30ボランティアC (ガイド事前調査)
23 雑木林応援隊 9:00炭屋	24 (休園日) アヤマ園(受) 6:30アヤマ園P 自然観察出前講座 (牛久保育園)	25 (休園日)	26 森の畑 9:30畑	27 アヤマ園(受) 6:30アヤマ園P 会報発送 13:00NC	28 巨木リサーチ2(特) 13:30ボランティアC (HB編集委員会)	29 フェンソ-講習会 9:00NC(29-30日) チーム'街路樹20(受) 13:00ボランティアC (交流会)
30 フェンソ-講習会 9:00NC(29-30日) 巨木リサーチ2(特) 8:30ボランティアC (見学研修)						

活動日は天候等により変更となる場合があります。
最新情報はホームページをご確認ください。

【凡例】

森:牛久自然観察の森
NC:牛久自然観察の森ネイチャーセンター
P:牛久自然観察の森駐車場
炭小屋:牛久自然観察の森駐車場の炭小屋
畑:牛久自然観察の森駐車場の畑
コジュケイ:牛久自然観察の森コジュケイの林
観察舎畑:牛久自然観察の森内観察舎前の畑

ムジナ:結束町の雑木林(通称ムジナの里)

市役所:牛久市役所本庁舎
市役所脇:市役所横の近隣公園
ボランティアC:牛久市ボランティア市民活動センター
中央生涯C:牛久市中央生涯学習センター

アヤマ園:三日月橋観光アヤマ園

(休園日):牛久自然観察の森休園日
(受):受託事業
(特):特別事業



編集後記

それにしても今年は暑い日が続きます。
もう9月ですよ。先月もこの欄に書きましたが、
8月8日(立秋)・8月23日(処暑)暑さが峠を越えて後退する、とありましたが、ますます日本列島に居座っています。
この会報が届くころは9月です。

9月9日は重陽の節句とあります。中国で重陽とは、奇数の数字は縁起の良い陽の数で9が重なることが、起源といわれるようです。前にも書きましたが5節句のひとつで、旧暦では菊が咲く季節から「菊の節句」ともいわれます。

また、こんな言葉もあります。「10日の菊」、ついでに「6日の菖蒲」。意味は役に立たないこと。語源は9月9日が菊の節句ですが、10日は1日遅れのため遅きに失するということです。同じく5月5日は端午の節句で6日は同じく1日遅れで役に立たずの意で、10日の菊と6日の菖蒲は同じ意味のようです。

我が家の庭に「カラスウリ」の花が咲きました。カラスウリの実を採ってきて種をまいてみたのですが、3年目でやっと咲くようになりました。当初一年草かと思っていましたが多年草とのこと。根は芋状の塊根で蔓が地面に伸びてそこから芽も出るとあります。花の数はまだ少ないですが、夕方遅く、白いレースの布のように開き、朝はしぼんでしまつた花は見事です。

佐藤 輝雄記

広報委員会からのお知らせ

次号2012年10月号の発送は9月27日(木)発送の予定です。うしく里山の会ホームページではカラーの会報を見ることができますので是非ご覧下さい。また会報に対するご意見や皆さまからのご投稿をお待ちしております。メールのアドレスは(u-satoyama@jcom.home.ne.jp)です。

表紙上段の「うしく里山の会」のホームページのアドレスが変わりました。